

# 市政功労者等を表彰しました —市制施行134周年記念式—

7月3日に、仙台国際センターで市制施行134周年記念式を行いました。長年にわたり、市の発展と市民生活の向上のために、多大な貢献をされた方の功績をたたえ、特別市政功労者5人、市政功労者33人、永年勤続委員84人を表彰しました。

◆市政功労者(本市の振興発展に寄与された方)(自治・消防功労) 白木新一郎、真木泰博、高橋秀幸、武川由美子、沼田胞善、山内功、大柳弘、影山明彦、金子賢司、池田建夫、嶺岸善信、加藤金一、山下晴也、吉見宏、早坂隆、佐藤茂吉、澤口政志、赤間信一(健康・福祉功労) 久道悦子、佐々木茂(産業・経済功労) 八重樫榮吉、畑文雄、山崎浩之、三田恵介、公平弘、佐藤正芳、阿部勝広(教育・文化功労) 久水敏司、堀江新一郎、松原悟、佐藤淳一、松坂宏造(国際交流功労) 田所希衣子

◆特別市政功労者(本市の振興発展に著しく寄与された方) 小野和子、須藤裕州、今村文彦(仙台市議会議員として20年以上にわたり市政の発展に寄与された方) 斎藤範夫、橋本啓一

◆永年勤続委員(委員として10年以上にわたり市政の推進に寄与された方)(仙台市福祉整備審議会委員) 齋木しゅう子、高橋秀信(仙台市社会福祉審議会委員) 上畑日登美、神谷哲司、陳進志、平山乾悦(民生委員児童委員) 熱海みき子、貝山栄子、小野寺幸子、小野寺チヨ子、千田美保子、佐藤恵美、木村敬二、宮藤忠良、後藤崇恵、佐藤憲子、佐々木奈々子、千葉照子、遠藤順子、今野たい子



◆子どもが安心して過ごせる「第三の居場所」づくりが始動

## 市政トピックス

### 杜の都が花で彩られた54日間—全国都市緑化仙台フェア閉幕

青葉山エリアをはじめとした市内各所を会場に開催された第40回全国都市緑化仙台フェア「未来の杜せんだい2023」が、6月18日に閉幕しました。会期中の来場者数は約115万人となり、市内外から訪れた多くの人々が花とみどりの魅力を体感したり、憩いの時間を過ごしたりしました。

## 市政トピックス

### 子どもが安心して過ごせる「第三の居場所」づくりが始動

6月19日、本市と公益財団法人日本財団、市内で子ども食堂などの事業を行う一般社団法人祐紀会の三者で、家庭や学校以外の「子ども第三の居場所」の提供を目的とした協定を締結しました。祐紀会が日本財団の支援を受け、令和6年3月に若林区で子ども第三の居場所事業を開始する予定です。



▲公式テーマ曲「feel the green」も披露されました



▶閉会式内で行われたフェア旗の引き継ぎ式

## 市政トピックス

市では、協定に基づき対象世帯に事業の周知を行うなど、子どもたちが健やかに成長できる環境づくりに取り組んでいきます。

## 市政トピックス

壹岐源昭、津田正敏、及川和典(仙台市障害支援区分判定等審査会委員) 竹内雅史、山田さゆり、高橋真由子(仙台市障害者自立支援協議会委員) 三浦剛(仙台市介護認定審査会委員) 五十嵐丈太郎、宇都宮昭裕、小川達次、菅野翔、小坂浩之、小船正明、助川泉、高田洋樹、高橋敦、中里壮志、水戸龍一、目黒由紀、和地辰紀(仙台市介護保険協議会委員) 小坂浩之(仙台市エイズ・性感染症対策推進協議会委員) 太田貴(仙台市環境影響評価審査会委員) 山口晶、松木佐和子(仙台市農政推進協議会委員) 伊藤房雄(仙台市スポーツ推進協議会委員) 仲野隆士(仙台市スポーツ推進委員) 前田篤彦、西嶋崇、小島吉雄、籠久仁江、庄司一之、一関優世、佐藤哲也、森義昭、阿部ふさ、早坂仁、寒川英明、小松真一、佐藤陽子、齋藤守夫、齋藤功、阿辺節子、相澤美香、佐竹章子、目黒定、小野寺澄子、片平貞子、熊谷淑子、佐藤裕一、稲葉滋、吉村修一、田村友子(仙台市景観総合審議会委員) 武山良三、馬場たまき(仙台市広瀬川清流保全審議会委員) 有働恵子(仙台市宮城野区区民協働まちづくり事業評価委員会委員) 庄司泰典(仙台市太白区区民協働まちづくり事業評価委員会委員) 本田茂、

## 市政トピックス

### 市の取り組みを世界へ発信—ブリュッセル訪問

世界約60都市の首長が参画し、地域の格差の是正や誰一人取り残さない経済成長等に向けて取り組む組織「OECDチャンピオン・メイヤー・イニシアティブ」の一員に郡市長が選定され、6月13日にベルギーの首都ブリュッセルで開催された会合に出席しました。会合には約30都市の首長らが出席し、世界的な課題となっている物価高騰や住宅確保への対応策について議論が交わされました。郡市長は、東日本大震災時の住宅再建の取り組み等を紹介し、人々の気持ちに寄り添ったきめ細やかな対応の重要性について述べました。今回得られた知見や国際社会でのネットワークを生かし、世界に選ばれる都市としての成長を目指します。



のネットワークを生かし、世界に選ばれる都市としての成長を目指します。

## 3.11 震災文庫を 読む

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3.11震災文庫」。所蔵する約1万冊からよりの本を、紹介します。

「3・11キラクのキラク—市民が撮った3・11大震災の記録」



NPO 法人 20世紀アーカイブ仙台/企画・編集・制作・刊

震災後の被災地を撮影した写真集で、被災した市民がそれぞれの目線で記録したものです。撮影日時は、震災当日から数カ月後まで、撮影場所も、宮城県内の多くの被災市町にわたっています。何より記録としての価値は、日時、撮影者、場所が全てに表示されている点で、離れた多くの地点で同時に撮影が可能になったのは、カメラ付き通信媒体の普及で、皮肉にも途切れた通信機能を補完できたからでしょう。「3・11」を写真で残す、と「3・11」を文字で残す、の2部構成。その後の定点記録図書として「3・11キラク」のキラク、そしてイマ。」

「3・11キラクのキラク、そしてイマ。2021」もあります。紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます。問市民図書館 ☎261・1585



大木聖子・藤原一 著 NHK出版 刊

「超巨大地震に迫る—日本列島で何が起きているのか」

震災前から地震、津波など天災の危険性を訴え、防災教育にも力を注いできた若い研究者が発見してしまった巨大災害に対して、おそらく「厄い」たる思いでまとめた警告書です。第一線で研究に携わりながら、何も為しえなかった無力感を感じつつも、繰り返されるであろう天災に対して、どう備えなければならぬのか、科学者の視点から多くのことを問いかけています。細かなデータの提示も分かりやすく、小・中学生にも向き合ってきた説得力ある語り口は、ドキュメンタリータッチでしっかりと伝わってきます。何度読み返しても胸が熱くなり、薄らいでゆく記憶をいつも2011年3月に呼び戻してくれます。